

日蓮大聖人御書全集

だいかほうごしよ

大果報御書

新版
2144

だいかほうごしよ

大果報御書

もの

しようしよう

追

出

起

請

書

者どもをば少々はおいだし、あるいはきしようかか

法

過

そうら

しちがつ

すえ

はちがつ

はじ

せて、ほうにすぎて候いつるが、七月の末・八月の始めに

しよりよう替

いちまんよそく

さくもう押

刈

さん野

惑

所領かわり、一万余束の作毛おさえかられて山やにまどい

そうろう

にちれんぼう

謗

故

匄

そうろううえ

候 ゆえに、日蓮房をぼうじつるゆえかとののしり候上、

おん 帰

のち

しちがつじゅうごにち

いげ

石

灰

もう

むし降

御かえりの後、七月十五日より已下、いしばいと申す虫ふり

くにだいたいさんぶ

飢

損

そうら

大

方

ひと

生

て、国大体三分のうえそんじ候いぬ。おおかた人のいくべ

見

そうろう

そうろう

思

立

たも

うえ

何

しともみえず候。これまで候おもいたたせ給う上なに

ごと

思

そうら

重

おんこころ

法

過

事もおもい候えども、かさねての御心ざし、ほうにもす

そうろう

ぎ候か。

そうら

殿

上

なによりもおぼつかなく候いつることは、とののかみの

みけしき

覚 東

そうら

こと

御気色いかんがとおぼつかなく候いつるに、なに事もなき

もう

こと、申すばかりなし。

高

麗

蒙 古

承

そうら

こうらい・むこのこと、うけたまわり候いぬ。「なにと

しやかによらい

ほけきよう

うしな

そうら

うえ

だいかほう

なくとも、釈迦如来・法華経を失い候いつる上は、大果報

さんねん

思

そうら

戦

飢

渴

ならば三年はよも」とおもい候いつるに、いくさ・けかち

続

そうら

くに

そうら

ほけきよう

広

つづき候いぬ。国はいかにも候え、法華経のひろまらん

うたが

こと疑いなかるべし。

おんはは

おんこと

きよう

読

そうろうこと

もう

そうろう

おんつか

御母の御事、経をよみ候事に申し候なり。この御使

急

そうら

詳

もう

そうろう

きようきようきんげん

い、いそぎ候えば、くわしく申さず候。恐々謹言。